



1999-2000

# うたのカンツメ

高槻子ども幸せと  
平和を願う合唱団

1999-2000

# うたのカンツメ

～高槻子どもたちの幸せと平和を願う合唱団～

■1999年11月14日 高槻市民音楽祭(高槻市民ホール)

- |               |                |       |
|---------------|----------------|-------|
| 01. アナウンス     |                | 0分37秒 |
| 02. 怪獣のバラード   | 岡田富美子作詞 東海林修作曲 | 3分00秒 |
| 03. 野に咲く花のように | 杉山政英作詞 小林亜星作曲  | 2分57秒 |

■1999年9月5日～12月4日 練習

- |                |                                    |          |
|----------------|------------------------------------|----------|
| 04. みんなでわあっ    | 佐々木洋子作詞作曲                          | 2分54秒 *1 |
| 05. キャンプだホイ    | マイク真木作詞作曲                          | 1分46秒 *2 |
| 06. カントリーロード   | B.Danoff, T.Nivert & J.Devner 作詞作曲 |          |
|                | 鈴木麻実子日本語詞                          | 2分49秒 *3 |
| 07. にんげんっていいな  | 山口あかり作詞 小林亜星作曲                     | 1分11秒 *3 |
| 08. だんご三兄弟     | 佐藤雅彦・内野真澄作詞                        |          |
|                | 内野真澄・堀江由朗作曲                        | 2分19秒 *3 |
| 09. WAになっておどろう | 長万部太郎作詞作曲                          | 1分51秒 *3 |
| 10. こぎつね       | 外国曲・勝承夫作詞                          | 1分03秒 *4 |
| 11. ふるさと       | 高野辰之作詞 岡野貞一作曲                      | 1分14秒 *4 |
| 12. とんぼのめがね    | 額賀誠志作詞 平井廉三郎作曲                     | 0分56秒 *4 |
| 13. 里の秋        | 斉藤信夫作詞 海沼実作曲                       | 1分38秒 *4 |
| 14. 森のくまさん     | アメリカ民謡 馬場祥弘作詞                      | 1分45秒 *4 |
| 15. おくりもの      | 石黒町子作詞 林学作曲                        | 2分15秒 *5 |

■1999年12月18日 クリスマス会(城内公民館)

- |                   |                |       |
|-------------------|----------------|-------|
| 16. 鳥の詩           | 阿久悠作詞・坂田晃一作曲   | 2分45秒 |
| 17. おばけなんてないさ     | 槇みのり作詞・峯陽作曲    | 2分09秒 |
| 18. ソレアード         | 山川啓介作詞・Zacar作曲 | 1分37秒 |
| 19. Believe(ビリーブ) | 杉本竜一作詞作曲       | 3分39秒 |
| 20. となりのトロ        | 宮崎駿作詞・久石譲作曲    | 3分33秒 |

【2000年2月19日～5月13日 練習】

1. 幸せな日々	北田恵子作詞作曲	3分38秒 *6
2. ぼくのとなりに	柚梨太郎作詞作曲	3分12秒 *7
3. 切手のない贈り物	財津和夫作詞作曲	3分35秒 *9
4. エーデルワイス	吉田孝古麻作詞・R.ロジャーズ作曲	2分16秒 *9
5. ちいさい秋みつけた	サトウハチロー作詞・中田喜直作曲	4分01秒 *9
6. 陽のあたる道	アメリカ民謡・高石友也訳詞	2分09秒 *10
7. 花をおくろう	森田ヤエ子作詞・荒木栄作曲	2分09秒 *10

■メイキング・オブ・きのこ

8. きのこ	芸術教育研究所リズムの会作詞作曲	0分32秒 *2
9. きのこ	芸術教育研究所リズムの会作詞作曲	1分29秒 *8
0. アレンジ風景		3分13秒

■あ・ち・ち コンサート・リハーサル(2000.5.20 城内公民館)

1. きのこ	芸術教育研究所リズムの会作詞作曲	1分31秒
2. よろこびの歌	きたがわつ作詞作曲	2分36秒

■エピソード

3. 幸せな日々	北田恵子作詞作曲	1分30秒 *7
----------	----------	----------

【録音データ】

1 1999.9.5 城内公民館	*2 1999.9.18 城内公民館	*3 1999.10.23 春日りばてい	*4 1999.11.6 春日りばてい
5 1999.12.4 城内公民館	*6 2000.2.19 警手公民館	*7 2000.3.4 春日りばてい	*8 2000.3.18 警手公民館
9 2000.5.7 春日りばてい	*10 2000.5.13 春日りばてい		

指導・ピアノ伴奏

南村知佐恵 (みなみむら ちさえ)

ノブヲノ

上田三美、加藤多賀子、集治昌枝、田畑潤子、鶴海孝子、長井芳子

アルト

竹内敬子、森下敬子、田畑純(テノール)

子供たち

加藤立登、集治葉子、竹内明喜子、田畑綾子、鶴海里穂、鶴海将宏、森下宏美

ブックレット表の絵

鶴海将宏(原画) + 田畑純

ブックレット裏の写真

田畑純

ケース裏の絵

上田三美(原画) + 田畑純

録音時間	72分57秒
録音・編集・制作	田畑 純

## 制作ノート

お待たせしました。CD「うたのkanzumi」をお届けします。これは、1999年9月から翌年5月の「高槻子どもの幸せと平和を願う合唱団」の活動の一端を記録したものです。この期間は、実は次のような3つの大きなイベントがありました。

1999.10.24「元気いっぱい！ うたおう！ あそぼう！」

1999.11.14「市民音楽祭」

2000.05.20「あ・ち・ち コンサート」

しかし、私たちの合唱団は、何かのイベントのために練習に来るのではなく、歌や遊びの楽しみが目的で練習に来るといった性格が強い団であったように思うのです。また「元気いっぱい！」と「あ・ち・ち」の本番に関してはビデオテープの記録もあるので、CD化の必要もないように思いました。私の手元には新旧さまざまな記録テープが集まりましたが、結局、私自身が録音していた練習時のカセットテープを中心にCDを作ることにしました。練習の楽しい雰囲気を残したいと思ったからです。そこで、冒頭に収録した市民音楽祭での2曲「怪獣のパラード」と「野に咲く花のように」をのぞき、他のすべてを日頃の練習から編集しました。愉快な歌「きのこ」に関しては「メイキング・オブ・きのこ」と題してのアレンジ風景もまとめてみました。このCDをお聞きになって、楽しい練習の様子、とりわけ子供たちが楽しそうに歌うその一瞬を思い出していたら幸いです。

このCDに収められている時期は、「高槻子どもの幸せと平和を願う合唱団」の創設者であり、長い間、指導的立場にあった加藤先生のいない時期でもあります。加藤先生は1999年4月より繁忙から団の代表を降り、練習にほとんど参加されなくなりました。このため、団は求心力を失います。加えて、集治さん、竹内さん、アキちゃん、そして私の4人は新設の「しあわせいっぱいコンサート合唱団」に掛け持ちで参加するようになり、結構いそがしい週末を過ごすようになっていました。このため私などは「高槻子どもの幸せと平和を願う合唱団」では集中力を欠くことが多くなっていました。そして、団員も減る一方の「高槻子どもの幸せと平和を願う合唱団」は、自然消滅するのも時間の問題のような状況にもなっていました。しかし、私自身は2つの合唱団を掛け持ちできるだけの力も時間もないことを痛感するようになり、結局「しあわせいっぱい…」の方をやめ、「高槻子どもの…」に活動をしぼることにしました。そして、この団にも「しあわせいっぱい」で榎原さんが発行していた「Sing Out! 途上の歌」のような機関紙が必要だと考え、「フェルマータ」という機関紙を発行しはじめました。フェルマータは、「活動の記録」と「団員相互の意志疎通」という二つの役割を果たすことを目標とし、南村先生の指導のポイント、団員の声、今後の予定を中心に紙面を作ることにしました。フェルマータというのは、「音をのばす」という意味の音楽記号のことですが、この機関紙が家に帰ってからも練習のつ

づきをする(=練習時間をのばす)手助けになれば、と考えて名付けました。それからもうひとつ、毎回の練習の様子をカセットテープに録音することを始めました。フェルマータに載せる活動の記録を正確にするためと自分自身の練習のためでしたが、この録音は私にとって大変有意義なものとなりました。というのも、録音テープを聴いていると練習中に気づかなかった多くのことに気づかされたからです。練習の際は、自分が声を出すことに集中しているせいか、いろんなことを見落としていたり、聴き落としています。この点、南村先生はピアノを弾きながら、きちんと見て聴いており、すぐにその場で指導してくださっていました。また、その指導の仕方も大変上手でしたし、何度聴き返しても楽しい練習風景でした。この毎回の録音テープこそが、私にとっての真の「フェルマータ」でした。

そしてゆっくりとですが、団の雰囲気も少しずつ変わっていきました。しばしば、子供たちの発言が大人の考えを変えることもあるようになりました。大人が親として子供を見るのではなく、子供の話し相手のような感じにもなってきました。それは子供たちが少し大きくなったことも関係していたと思います。そして、子供たちがよく歌うようになり、みんなが練習に積極的に参加するようになりました。休む人が減りました。歌うことが楽しくなり、1曲1曲をどのように仕上げるかをそれぞれが考えるようになっていきました。それででしょうか、やっとな村先生の指導が行き渡るようになってきました。まさに集中力と求心力がうまく引き合うようになりました。集治さんが抜け、長井さんが抜け、と団は少しずつ寂しくなってきましたが、ひとりひとりの歌へのとりくみはどんどん大きくなっていきました。でも「高槻子どもの幸せと平和を願う合唱団」は団員が減るところまで減ってしまい、ついに活動を停止することにしました。団を存続するためには、運営のための人数やお金がある程度必要です。もちろん、ハーモニーを作るための最低の人数も必要です。こうしたことが不可能な状態になれば、活動停止もやむを得ないと思います。やるだけのことはやりました。最後まで楽しかったし、充実していました。その楽しい様子はこのCDから聞こえてくると思います。

このCDのタイトル、いろいろと考えましたが、なかなか決まりませんでした。凝った名称をいくつも考えましたが、結局、シンプルな「うたのカンヅメ」としました。いつまでも変わらない「よるこび」や「たのしみ」、「笑顔」や「思い出」のカンヅメとして、時々、開封してご賞味ください。このカンヅメに賞味期限はありません(´▽`)

2000年10月25日

田畑 純 (たばた まこと)

## 曲目解説

■1999年11月14日 高槻市民音楽祭(高槻市民ホール)

### 01. アナウンス

田畑)による団紹介。確かに子供たちの状態次第で、ずいぶん練習の雰囲気も違いました。大変だった時もありました。というわけで、CDはこれでスタートします。最後のところで「野に咲く花のように」を「野に咲く花を」と言い間違えてしまうのはご愛敬。

### 02. 怪獣のバラード 岡田富美子作詞 東海林修作曲

大昔のNHKの歌番組、「ステージ101」のオリジナル・ソングで、田畑Mの持ち込み。子供たちが大好きな曲。ソプラノの最高音を受け持つ鶴海さん、中高音のかなめ集治さん、アルトのかなめ竹内さんなどの声がよく聞こえてきますが、何よりも子供たちの声が入ります。当日は、マサヒロくんが怪獣ルックで登場しましたが、その様子は、ブックレット裏カバーの「歌おう！遊ぼう！」の時の記念写真でも見ることができます。また、ピアノ(南村)以外に、ギター(田畑)、手風琴(竹内)、ウッドブロック(集治)、鈴(鶴海)とさまざまな楽器をいれ、にぎやかな構成になりました。手風琴は、コンサティーナと呼ばれるアコーディオンの一種で、ピアノよりも音が大きく豊かです。怪獣の咆哮のようなイメージで取り入れましたが、ピアノとの掛け合いのような構成も成功したと思います。少しユーモラスな怪獣が、ずしんずしんと砂漠を歩きながら、吼えているイメージ、少しぼっかり淋しげなイメージ、そんな様子を思い浮かべてください。

### 03. 野に咲く花のように 杉山政英作詞 小林亜星作曲 歌集「歌の森」p51

映画&TVドラマ「裸の大將」シリーズの主題歌。芦屋雁ノ介の好演もあって人気の番組でした。「こどものしあわせ」風「野に咲く花のように」は手話を交えての合唱。手話はヒロミちゃんとアヤコによる日吉台小学校バージョンに準拠。低音パートは南村先生がつけてくださったものです。「怪獣のバラード」のあとに歌う歌なのでおだやかなムードを出せるこの曲を選びました。「るるるる・・・」のところでは、ひとりひとりが違うタイミングで、次々と花を咲かせる動作をしました。

■1999年9月5日～12月4日 練習

### 04. みんなであわっ

佐々木洋子作詞作曲

南村先生が持ってこられた歌。どこかで歌うつもりで練習を何度もしたけれど、とうとう本番

はなかった。最初、子供たちの声が悪くてなかなか歌にならなかつたけれど、だんだん上手になってきていたので、もったいなかった。

#### 05. キャンプだホイ                      マイク真木作詞作曲      歌集「歌の森」p104

南村先生がリクエスト・タイムと称して子供たちから歌いたい歌を募り、みんなで歌う、という楽しい時間が時々あった。歌集としては「歌の森」という小学校で使われている歌集を使った。この歌もそんなリクエストで歌った1曲。キャンプなどでの定番だが、メロディが少し違っており、みんな口々に「なんかちがーう」といいながらも楽しげに歌っていた。おりよく、マイク真木はヒーロー戦隊ものにレギュラー出演しており、子供たちも顔を知っていた。バイク乗りにとつては有名人ライダーとしておなじみであり、アウトドア人間にとってはファミリーキャンプとして知られている。マイク真木の魅力は「バラが咲いた」だけではない。

#### 06. カントリーロード   鈴木麻実子日本語詞   宮崎駿補作詞

もとはジョン・デンバーの代表作。フォークギターを覚えた頃にはやっていた歌で、ついつい彼風に歌いたくなくなってしまう。スタジオ・ジブリのアニメ映画「耳をすませば」の主題歌として日本語詞が付けられて使われ、再ヒット。原詩と比べるとやや歌詞が未完成なのが残念。この曲は、1998年の「しあわせいっぱいコンサート」で我が団が歌った曲。出だしにソロパートをつけ、集治さんが伸びやかに歌ったのが印象的だった。それ以来、何かとよく歌う歌。なお、このコンサートをきっかけに本格的な混声合唱団であり、我々とも姉妹関係にある「しあわせいっぱいコンサート合唱団」が発足する。

#### 07. にんげんっていいな                      山口あかり作詞   小林亜星作曲      歌集「歌の森」p50

南村先生のピアノ教室の発表会「あすなろコンサート」に客演したときや、「高槻こどもまつり」などでよく使った曲。人気TVアニメ「日本むかしばなし」の主題歌であり、小さな子でも良く知っている歌であったし、歌いやすい歌だった。また、これに手話を交えて歌うので、手話を説明しながら歌うという構成も可能だった。

#### 08. だんご三兄弟                              佐藤雅彦・内野真澄作詞   内野真澄・堀江由朗作曲

1998年暮れに大ブレイク。「黒猫のタンゴ」、「およげ！ たい焼きくん」に次ぐ大ヒットだと話題になった。南村先生の別ユニット「おてもやんず」も1999年の合発に使っていた。余談だが、その際に指揮者の南村先生が客席を向いて団員ふたりとともに「だんご」のジェスチャーをしたのはなかなか面白かった。我々の場合は、次の発表会で何を歌うかという時の候補曲として練習したが、歌詞が多くてとても覚えられない、という声があったのと、ブームが去りかけていたこともあり落選。

## 09. WA になっておどろう

長万部太郎作詞作曲

1998年の長野オリンピックの閉会式で使われた曲。各国の代表が入り乱れ、楽しそうに踊っていたのは印象的だった。しかし、歌う段になると案外、リズムのためをきちんと作るのが難しい。もとはNHK「みんなのうた」から。次の発表会の候補曲として練習したが、早々と落選。

## 10. こぎつね

外国曲 勝承夫作詞

1999年11月7日の「高槻こどもまつり」で歌うための練習。「こぎつね、こんこん」も「雪や、こんこん」も冬の歌であるが、どちらも「〇〇、こんこん」で面白い。また、春の歌や秋の歌などくらべても、これら冬の歌の方がむしろ軽快な曲で、ユーモラスな感じが出ている。動物が出てくること、しかも寒さの中での過ごし方を描写していることも共通していて面白い。秋の歌だと紅葉と虫が主役。冬の歌だと雪と動物が主役ということになるのだろうか。

## 11. ふるさと

高野辰之作詞 岡野貞一作曲 歌集「歌の森」p71

「高槻こどもまつり」で歌うための練習。しかし、子供たちが一斉に「しらなーい」とのことでも一同驚く。最近では「ふるさと」を小学校では習わないらしい。確かに「うさぎ追いし」なんて言っても、もうびんとこない子がほとんどだろう。家はウサギ小屋と言われ、外の自然は破壊の限りで、里山もなくなってしまったし、あつてもうさぎなんてどこにもいない。自然と人の住居がどうしてこんなに離れてしまったのだろう。もう、日本のうさぎは、歌の中にしか住んでいないのかも知れない。そんなことを感じてしまった。しかし、この歌自身はやはり秀逸。アヤコも気に入ったようで、時々、家の中でくちずさんでいた。近年、国歌としてこれを推す人が多いのもうなずける。南村・榊原夫妻の結婚祝賀イベント「あ・ち・ち コンサート」では、この曲が最後の締めくくりの歌に使われた。やや音域が高めなのが難だったがが二部に分かれた合唱にピアノとフルートが美しく入った。これが国歌ならば、まさに国歌斉唱の場で2部の合唱が可能なので、他国の人からも「ほお」と感心されるに違いない。ところで、昔は、文部省唱歌として紹介されていたが、最近では作詞作曲がだんだんと明らかになり、きちんと表記されるようになった。中でも、岡野貞一の作品はすぐれた物が多く、春が来た、春の小川、おぼろ月夜、もみじ、などがある。

## 12. とんぼのめがね 額賀誠志作詞 平井廉三郎作曲

これも「高槻こどもまつり」のための練習。我々は1999年10月24日に「元気いっぱい！うたおう！ あそぼう！」というミニコンサートを行った。このミニコンサートは知り合いの皆さんお母さんをたくさん招き、我々の団の歌や遊びを紹介するという性格のものだった。団員全員による合唱披露では、「喜びの歌」「野に咲く花のように」「怪獣のパラード」を歌った。また、集治さんはエプロンシアター、鶴海さんは歌遊びと手遊び、そして私は季節の歌を担当し



て日頃の活動の一端を紹介した。で、その季節の歌でも人気だった曲。この歌の最後の方で南村先生が「あーマサくん、残念だったねえ」と言うのが聞こえるが、ちょうどマサヒロくんが部屋の外から戻ってきたのを見てのせりふ。一緒に歌いたかったんじゃない？ マサくん。

### 13. 里の秋

齊藤信夫作詞 海沼実作曲 歌集「歌の森」p60

「高槻こどもまつり」で歌った曲。もともと、日本の歌には秋の歌に優れるののだが、それは万葉の時代から続く叙情的な感性だけが理由ではないだろう。多分、日本語の発音が単純なことが、素朴な歌にしっかりと合うことも大きな要因のはずだ。英訳や仏訳では、この素朴な感じを出せないのではなかろうか。

### 14. 森のくまさん

アメリカ民謡 馬場祥弘作詞 歌集「歌の森」p31

「高槻こどもまつり」で歌った曲。キャンプソングの定番。アメリカ民謡ということだが、元歌も熊さんのことを歌っているのだろうか。北米に住んでいる熊は凶暴なヒグマなので追いかけられたら、かなり怖い(笑)。歌集によっては、馬場祥弘の作詞作曲となっている。

### 15. おくりもの

石黒町子作詞 林学作曲

「高槻こどもまつり」で歌った曲。指導曲として少し時間を余分にとり、手話の説明と歌の指導を加藤先生がされた。我々の合唱団にとって大事な持ち歌のひとつ。

## ■1999年12月18日 クリスマス会(城内公民館)

### 16. 鳥の詩

阿久悠作詞 坂田晃一作曲

もとはTVドラマ「3年B組金八先生」の主題歌。ここでは、集治さんと竹内さんによるデュエット。ハーモニーのパートは集治さんのオリジナル。

### 17. おばけなんてないさ

楨みのり作詞 峯陽作曲 歌集「歌の森」p51

リュウト君のリクエスト。「おばけを冷蔵庫にとじこめよう」という発想がおもしろい。どんなに科学が進んでも、おばけや妖怪、幽霊、怪獣などはこどもたちの身のまわりに住んでいる。スタジオ・ジブリの「平成たぬき合戦 ぼんぼこ」でも、昔ながらの化け物ヌキたちが、現代人にひとあわふかす様子をユーモラスにとりあげていた。これでいいのだ。昔はかまどに神様がいたが、今では、ガスレンジや冷蔵庫に神様がいるのだ。物を大切にしよう。食べ物も大切にしよう。それでいいのだ。そうすればおばけだって味方になってくれるはずだ。

## 18. ソレアード

山川啓介作詞 Zacar作曲

加藤先生のソロ。2回の転調で音がどんどんあがって行くので実際に歌ってみると結構しんどい歌である。声量があり、高い声域をもつ加藤先生ならではの歌。歌詞の内容も先生の理想と重なっていると思うし、ビブラートがうまくかかっている、それが曲のイメージを高めていた。ちなみにこの“Soleado”という言葉は、ダニエル・センタクルツ・アンサンブルのリーダー、チロ・ダッミッコが「哀しみのソレアード(原題は“Soleado”)」という曲作りで「森の中に降り注ぐ陽の光」をイメージして作った造語らしい(片山伸「Italian music favorites」による)。

## 19. Believe (ビリーブ) 杉本竜一作詞作曲

NHKの「生き物地球紀行」の主題歌。集治さん一家による斉唱。出だしのソロはお姉さんのナナちゃん。

## 20. となりのトロ

宮崎駿作詞 久石譲作曲 歌集「歌の森」p47

スタジオ・ジブリの代表作「となりのトロ」の主題歌。前述した「しあわせいっぱいコンサート」での全体合唱に使われた曲で、竹内さんの大のお気に入り。よく歌った。映画「となりのトロ」は、外国語にも翻訳されて世界中に配給されており、最近の日本アニメとしてはもっとも知られている作品のひとつである。日本の昔ながらの家屋、服装などがほどよく入っていることもあり、日本の民俗、文化などを紹介する教材としても使われていると聞いた。フィンランドでも放映された。翻訳を担当した人と知り合いだったのだが、彼女(フィンランド人)は「トロ、だーいすき」と言っていた。もちろん日本語で。

■2000年2月19日～5月13日 練習

## 21. 幸せな日々

北田恵子作詞作曲

日吉台小学校の2年生が音楽劇「スーホの白い馬」をした。その中の1曲で、モンゴルの青年スーホが白い馬と出会い、大事に育てるシーンで使われた。後に、スーホはこの馬で競走に出て、優勝するのだが、殿様が約束を破り、スーホを袋叩きにして大事な馬を奪ってしまう。息もたえだえのスーホは祖母の看病でなんとか持ち直し、馬は馬で殿様のもとからスーホのもとへと逃げ帰ってくる。しかし、逃げるときに負った傷のため、白い馬はスーホの腕の中で死んでいく。悲しみにくれたスーホは、白い馬の骨やしっぽの毛で楽器を作り、歌うようになった。それが馬頭琴という楽器の由来である、というのがあらずじ。作者は大塚勇三(採話)と赤羽末吉(絵)で福音館書店1967年の絵本。教科書にも載るようになり、こうして音楽劇にもなった。作詞作曲は門真で学校の先生をされている北田恵子さん。入手した楽譜は手書きのものだった。また、日吉台小では、モンゴルの馬頭琴演奏者が来て演奏会も開かれた。

給食メニューなどを見ても、様々な国の料理が出るようになっており、我々の子供時代には考えられないほど、国際化が進んでいる。日吉台小の二人、ヒロミちゃんとアヤコの持ち込みで我々もよく歌う歌になった。途中、サザエさんの歌とよく似たメロディーが出てくるのでちょっとおもしろい、という指摘もあったけど、気にしない、気にしない。

## 22. ぼくのとなりに 柚梨太郎作詞作曲

合唱関係では人気のある「ゆずりん」の作品。やや単調な構成であることや、歌詞があわただしいこともあって、少し歌いにくかった。しかし、いい感じの内容で人気はよくわかる。このほか、きたがわてつさんや、杉本竜一さんなどが人気のように思う。最近TVなどへの出演が多い羽田健太郎さんや青島センセイは、一時期、いい曲を作っていたようだが、人気の点では全然という気がする。ムズカシイ歌はだめだよ。

## 23. 切手のない贈り物 財津和夫作詞作曲 歌集「歌の森」p97

リホちゃんのリクエストで、リホちゃん自身のリードで始まる。手話も教えてもらう。「野に咲く花のように」の時もそうだったが、子供たちが覚えている手話を大人たちが教わるというケースがけっこう多かった。さて、この歌はかつての人気グループ「チューリップ」のリーダー財津さんがNHK「みんなのうた」のために作った曲。このころ、福岡からは、井上陽水、チューリップ、甲斐バンドなどが出てフォーク界を席卷しており、福岡は東洋のリヴァプールなんて言われていた。その後も福岡は海援隊、チャゲ&飛鳥などを輩出する。おかげで福岡の中・高生のたしなみとしてギターの弾き語りもできんのは恥ずかしいっちゃ(北九州弁)、という感じだった。ホントの話バイ(博多弁)。

## 24. エーデルワイス 吉田孝古麻作詞 ロジャーズ作曲 歌集「歌の森」p91

アキちゃんのリクエスト。エーデルワイスというのはスイスやドイツの高山植物で、可憐な小さな白い花をつける。ドイツやオーストリアの人にとっては特別な花のようだ。余談だが、道頓堀にエーデルワイスという名のドイツビールとドイツ料理を出してくれるビアホールがある。30分おきぐらいにバイオリン、ピアノ、シンガーによるドイツの歌(ピア・ソング)が聞ける。「乾杯の歌」が出たら、みんなで乾杯しあってから黒ビールを飲む。雰囲気がいいので割とおすすぬ。話を戻して歌のエーデルワイスだが、アキちゃんはリクエストをしながらも、この歌を知らなかった。歌詞の内容からリクエストしたのだろう。そういう歌がたまにある。また、アヤコぐらいの年(小2~小3)だと少し大人っぽい歌を歌いたがる傾向があった。たとえば、「君をのせて」とか、「ふるさと」、「陽のあたる道」、「幸せな日々」などがそうだ。この歌もそうした魅力があるように見える。子供だからと子供むけの曲ばかりを歌っているとそっぽを向かれるのは必定のようである。竹内さんのアルトパートがきれいだ。

25. ちいさい秋みつけた サトウハチロー作詞 中田喜直作曲 歌集「歌の森」p61  
上田さんのリクエスト。亡くなった中田喜直さんの作品。中田さんは多くの童謡と叙情歌を作った作曲家で、めだかの学校、かわいいかくれんぼ、てをたたきましよう、おかあさん、わらいかわせみに話すなよ、夏の思い出、雪の降る町を、などなどがある。感謝の気持ちで哀悼を込めて歌う。この歌は、まずサトウハチローさんの歌詞がすばらしく、また、それをメロディーがうまく支えており、例えば「誰かさんが誰かさんが誰かさんが見つけた」という歌い出しなどは秀逸。また、南村先生のピアノを聞きながら、中田さんのピアノ曲もいいものがたくさんあったのを思いだす。最後のところで、「たばたさんの・・・」という南村先生の声は、私の歌声へのお褒めの言葉であり、照れくさいのでカット。指導者のいないのが我々の団の悩みでもあり、良さでもあった。南村先生は歌唱指導に指導をとどめ、ご自身で先頭に立つということは避けている感じがあった。加藤先生への遠慮もあったと思うし、我々の自主性への配慮もあったように思う。先生はよく私をたててくださったが、せいぜい私はコンサートマスターのような役割を果たせればと思っていた。

26. 陽のあたる道 アメリカ民謡 高石友也訳詞  
「あ・ち・ち コンサート」では全体合唱が3曲あった。「陽のあたる道」、「花をおくろう」、「ふるさと」である。最初の2曲は我々にとっては初めての歌であったが、みなよく練習し、子供たちもよく覚えてくれた。作詞はフォーク時代にナターシャ・セブンを率いて歌っていた高石友也。「歌いながら君と行く、この道を行く」とは、いかにも「あ・ち・ち」の二人の祝婚歌にふさわしい。

27. 花をおくろう 森田ヤエ子作詞 荒木栄作曲  
「あ・ち・ち コンサート」の全体合唱の歌のひとつ。4部に分かれるため、「こどものしあわせ」にとってはかなりの難曲。しかし、これも子供が案外よくついてくる。うたごえ系の結婚式ではよく歌われる曲らしい。

#### ■メイキング・オブ・きのこ

28. きのこ 芸術教育研究所リズムの会作詞作曲  
ヨーコちゃんのうた。この歌がきっかけで、後に「きのこ」をとりあげるようになる。鶴海さんの分析によると、「き、き、きのこ」とか「しよ、しよ、しようじようじ」など、出だしの言葉を連呼する歌は、決まって、こどもたちの好きな歌になるとのこと。確かにそうかもしれない。「たん、たん、たぬきの・・・」もそうだし。

## 29. きのこと

芸術教育研究所リズムの会作詞作曲

探してきた楽譜をもとに歌う。歌詞が何とおりかあり、まだこのころは多少の混乱があった。まどみちお作詞となっている楽譜もあり、確かにまどさんの持つ雰囲気も感じられたのだが、それにしては詩として未熟な感じがした。そこで、複数の歌集で表記されていた上記団体の作詞としつつも、いいところの歌詞を少しずつとりまぜて歌うことにした。

## 30. アレンジ風景

歌詞をどうするか、おもちゃ楽器は「きりきり」と「ぼこぼこ」があったのだが、これらをどう入れるか、手作りマラカス(ペットボトルやアイスクリームカップに米や小豆をいれたもの)のリズムはどうとるか、パーティ・クラッカーをどこで焚くか、などはすべて話し合いながら決めていった。楽しくやる。へたなことを前提で一生懸命やる。こんな変な合唱団を、南村先生はよくぞ歌唱指導してくださっていたなあと思う。それで、そういう様子を小刻みにつないで編集してみた。最後の方の擬音についてのアドバイスは、特別指導に来てくださっていた榎原さん。こんな風にみんなで意見をだしあって、南村先生の指導に沿って1曲1曲を作り上げていく過程はとても楽しい作業だった。

### ■あ・ち・ち コンサート・リハーサル(2000.5.20 城内公民館)

## 31. きのこと

芸術教育研究所リズムの会作詞作曲

「あ・ち・ち コンサート」とは、我々の指導とピアノ伴奏をしてくださっている南村先生と「しあわせいっぱいコンサート合唱団」で大活躍している榎原さん、このお二人がめでたくゴールインとなったので開かれたコンサート。つまりは、二人の結婚祝賀会を兼ねたコンサート形式の披露宴。実行委員会が作られ、二人に関係する多くの合唱団から知恵と協力を集めて運営された。盛大なコンサートとなり、出席者300余名、25団体が歌ったのだが、我々はその中で最初の団体であった。しかもこれが1曲目。挨拶や乾杯のあとということもあり、会場はざわめきはじめ、思い思いに料理に手をのぼし、雑談をはじめるところだ。だから、こうした会場の雰囲気にも負けないようなインパクトのある歌を歌う必要があった。それで、まず格好だけれど、少しきれいな普段着に手作りの「きのこと」バッジ(鶴海さんが持ってきた紙粘土で作った)や髪飾り(森下さんの手製)、私や田畑などはキノコの絵を首からさげ、マラカス部隊はキノコの絵でカモフラージュしたマラカスをならして歌うことにした。忙しいさなかをぬって加藤先生が来てくれることになっていたが、なかなか来ない。舞台上にあがりはじめたころ、加藤先生がリュウトくんとミウちゃんをつれて会場に入ってきた。ああ、やっとそろった。子供たちは少し前に出て、大人たちは後ろ。出だしのところ、大きな声で。みんな会場の空気に吞まれずに歌っていたと思う。ただし、あとで写真を見るとリュウトくんだけは、口をあんぐりあけて、僕らの方を見

たまま固まっていた。あんまり練習に来ていなかったから、びっくりしたのだろう。さて、楽器類は、きりぎり(田畑M)、ぼこぼこ(リホちゃん)、手製マラカス(上田、アキちゃん、マサヒロくん)、竹のカスタネット(ヒロミちゃん、アヤコ)などがあつた。最後にパーティ・クラッカーを竹内、森下、鶴海、田畑が焚いた。全員が何かを手にもって歌を歌つたことになる。歌うという行為の楽しさやにぎやかさを出したかつた。歌だけではやや非力になってきていた団の景気づけやぼろ隠しの役目もちよつとはある。さてこれはリハーサルの収録だが、本番もこんな雰囲気だつたと思う。「こどものしあわせ」風に味付けした「きのこ」のお味はいかが？

### 32. よろこびの歌

きたがわてつ作詞作曲

「あ・ち・ち コンサート」で歌う2曲目、と同時に我々が「高槻子どもの幸せと平和を願う合唱団」として歌う最後の歌になった。この「よろこびの歌」は、姉妹関係にある、しかし相当に本格派の「しあわせいっぱいコンサート合唱団」のデビュー時の持ち歌でもあつたので、最初はいかに違う仕上がりにするか苦労した。しかし、実際は子供の声がかうまく出るようになって悩みは解消した。子供が生き生きと歌うというこの1点のみで我々らしいものになつたように思った。「きのこ」とは反対に歌だけで表現するそのシンプルさもよかつたのではないだろうか。

## ■エピソード

### 33. 幸せな日々

北田恵子作詞作曲

先生のいない時に録音したもの。南村先生が来られるまでの30分を使って、鶴海さんのピアノや私のギターで練習することがあつた。子供たちもまた違った表情で歌っている。自分たちだけで歌うというのも自然な感じでなかなかよいと思う。ということで、このピースを締めくくりにした。

## ご注意

1. このCD-Rは、通常の音楽CDと同じように傷や汚れ、高温に注意して扱ってください。
2. CD-Rの特性として、光の反射率がやや低く、CDプレーヤーによっては最初の音が出るのに少し時間がかかったり、認識できない場合があります。認識できないように見えても、セッとなおすと、認識できることがありますので、何度か試して見てください。
3. カー・オーディオなどのスロットイン形式(CDを細長い穴に差し込むタイプ)のCDプレーヤーでは使用できません。これは、CDのラベルがシール方式になっており、シールがはげて故障の原因になることがあるからです。また、このラベル・シールを無理にはがすと、信号面も一緒に剥離しやすく、音が出なくなります。実費にてラベルのないCDをお作りしますので、ご相談ください。
4. ブックレットやCDラベルのカラー印刷は、水に濡れるとにじむことがあります。また、褪色しやすいので日当たりのよい場所や温度の高い場所に放置するのはさけてください。
5. 実費と送料のご負担で追加プレスに応じます。ご相談ください。

### 使用した機器やソフトウェア

#### 【ハードウェア】

録音: Sony WM-GX677

デジタル変換: Roland UA-30

CD-Rドライブ: YAMAHA CRW4416S

コンピュータ: 自作組立PCなど計3台

カラープリンタ: エプソン PM-770C

#### 【ソフトウェア】

デジタル変換: CoolEdit Pro LE 1.2 (UA-30付属)

CD-Rドライブ: BHA B's Recorder Gold 1.82

画像処理: Adobe Photoshop 5.5

CDラベル作成: らくちんCDラベルメーカーLight

文章レイアウト: クラリス・インパクト 3.1

田畑 純 (たばた まこと)

## 高槻子どもの幸せと平和を願う合唱団



指導・ピアノ伴奏： 南村知佐恵

ソプラノ： 上田三美、加藤多賀子、集治昌枝、  
田畑潤子、鶴海孝子、長井芳子

アルト： 竹内敬子、森下敬子      テノール： 田畑純  
こどもたち： 加藤立登、集治葉子、竹内明喜子、  
田畑綾子、鶴海里穂、鶴海将宏、森下宏美